

都市・ひと・自然を考える

10/4

都市ビル 環境の日

主催／ 福岡県ビルメンテナンス協会

〒812 福岡市博多区博多駅前1丁目15番 出光ビルディング
電話 092-481-0121番 FAX 402-481-0402番

後援／ 福岡県

協賛／ 社団法人福岡ビルメンテナンス協会
社団法人福岡県警備業協会
日本環境管理学会九州支部
社団法人高齢住宅管理業協会九州地方支部
社団法人建築物飲料水管理協会福岡県支部
全国急洗浄衛生協会
福岡県ベストコントロール協会
福岡ガラス外装クリーニング協会
福岡県ビル管理協同組合連合会
福岡総合ビル管理事業協同組合
田川ビルメンテナンス協同組合
飯塚ビル管理事業協同組合
直方ビル管理協同組合
北九州ビルメンテナンス協同組合
筑後地区ビル管理業協同組合
筑紫地区ビル管理事業協同組合



記念行事プログラム

福岡県ビルメンテナンス協会

10月4日

『都市ビル環境の日』

設定趣旨

林立するビル、縦横に走る高速道路、地下を走る公共鉄道。都市のイメージは巨大な構造物で語られがちです。しかし、その都市のなかでは日々仕事に汗を流し、営々と生活を続けている多くの人々がいることを忘れてはなりません。人類の生命活動から考えるならば、都市は人々が交流するコミュニティと捉えることができます。生活空間、仕事空間、あるいは余暇空間など、様々な都会空間のなかで小さなコミュニティを築き、そのコミュニティが交流し合いながら大きなコミュニティを形成してきました。

私たちビルメンテナンスは、ビルという構造物を単にメンテナンスするだけでなく、このコミュニティを快適な状態に維持しようとしてきました。仕事の場としての事務所ビル、生活の場としての高層住宅ビル、余暇の場としての興業場ビル、健康回復の場としての病院ビル。ビルは都市機能の重要な要素というだけでなく、そのビルで営まれる様々なコミュニティこそ都市機能の基盤であり、私たちは、そのコミュニティを安全で衛生的で、快適な環境に創り上げていくことを

基本的な目的としています。

したがって私たちは、コミュニティの結び付きで形成されてきた都市の環境全般に対しても無関心ではられません。個々のビルの快適環境だけでは、都市環境はバランスを欠きます。個々のビルが所属する地域の環境を良好にしてはじめて、そのビルが地域コミュニティに存在する意味があると考えます。その積み重ねのなかで都市全体を快適な環境に創り上げ、市民が豊かで住み易い街として愛することができる都市に育てていかなければなりません。

福岡県は、福岡市と北九州市の百万都市を抱えながらも、幸い自然と身近に接する環境を有しています。私たちは、その自然と融合できる都市環境を築き上げていかなければなりません。

私たち社団法人福岡県ビルメンテナンス協会は、自らの仕事が都市との強い結び付きのあることを考え、住みよい街づくりに貢献していくことを目的として、10月4日を「都市ビル環境の日」と定め、県民に都市の環境づくりをアピールしていきます。



(社)福岡県ビルメンテナンス協会 会長

末吉 桓寧

住みよい理想の街づくりを
多くの皆様と一緒に考えたい

私たちの住む福岡県は、季節とともにさまざまな表情を見せる自然に恵まれたところです。福岡市の脊振山系と博多湾、久留米市の筑後平野と耳納連山、豊かな海の玄海灘にカルスト台地の平尾台、そして筑豊の英彦山国定公園。この大切な自然を守り調和しながら、県北部にはアジアの国際都市として発展をめざす政令指定都市「福岡市」と「北九州市」があります。ここにはそれぞれ百万人を越える人々の生活があり、人間が活動するための人工的創造空間があるのです。

私たちビルメンテナンス業界は、都市の文化遺産としての建築物「ビル」を維持管理し、またそこで生活し、動き、利用する人々の「衛生的環境の確保」と、高度化したビル設備を保守運転管理することによって「快適さ」を提供し、また警備防災業務は日夜の「安全」を確保しているのです。この都市機能の一部を支える大切な役割を、私たちの仲間、福岡県におけるビルメンテナンス業の就労人口2万6千余の方々が、たゆみなく日々取り組んでいます。

私たち社団法人福岡県ビルメンテナンス協会は、日々の仕事で都市との強い結び付きのあることを考え、住みよい街づくりに貢献していくことを目的として、10月4日を「都市ビル環境の日」と決めました。自然環境と調和し、人間のために機能する優しい都市の環境づくりをテーマに、関連団体の方々と、また広く県民の皆様とともに毎年考えていく機会をつくっていきなうと思っております。

また、この記念式典で基調講演を引き受けていただきました八木拓四郎(社)全国ビルメンテナンス協会会長をはじめ、パネリストの皆様、並びに最後になりましたが、協賛団体の各位、及びご後援いただきました福岡県に衷心より感謝御礼申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。



福岡県知事 麻生 渡

「都市ビル環境の日」設定を契機に
よりよい環境づくりへの一層の貢献
を期待します

「都市ビル環境の日」記念式典が盛大に開催されますことを、心からお喜び申し上げます。

貴協会におかれては、昭和54年に設立されて以来、建築物のより衛生的な環境や安全性の確保をめざして積極的に関係業者の指導育成に努力され、著実にその成果を取ってこられたことは誠に喜ばしく、皆さんのご努力に深く敬意を表します。

私たちをとりまく生活環境は、人口の都市集中化や建築技術の著しい進歩などとともに、都市部を中心としたビルの大規模化が進んでおり、一日の大半をビル内で過ごす人々が年々増加してきています。

また、都市は昔前に比べると随分美しくなっており、美的センスあふれる芸術性の高い建築物が建てられるなど、ビルをただ建てるだけでなく景観形成にも配慮がなされています。

今やビルは単に活動の場としての経済性や機能性だけでなく、居住空間としての快適性や安全性が特に求められています。

このような時に、都市と自然環境が調和し、人間のために機能する優しい街づくりをテーマに、全国に先駆けて10月4日を「都市ビル環境の日」と設定されたことは誠に意義深いものがあるとと言えます。

この式典に参加の皆さんにおかれては、今後、貴業界の果たす役割を十分認識されとともに、ビルのよりよい環境づくりになお一層寄与されることを期待します。

県としても、ゆとりと潤いのある福岡県をつくるため、皆さんと共に頑張っていく所存ですので、今後とも県行政に対するご理解とご協力をお願いします。

おわりに、この記念式典のご成功とともに貴協会のますますのご発展と、皆さんのご健康を心から祈念しまして、お祝いの言葉とします。



福岡市長 桑原 敬一

健康的な都市づくりへの積極的な取り組みに心から賛同します

社団法人福岡県ビルメンテナンス協会の主催により、「都市ビル環境の日」の設立記念式典が盛大に開催されますことを心からお喜び申し上げます。

お祝いの言葉を申し上げるにあたり、先の世界の若人の祭典「第18回ユニバーシアード大会1995福岡」が、皆様方の多大の御支援、御協力により、盛會裡に開催できましたことに対し深く感謝申し上げます。

さて、本市では「活力あるアジアの拠点都市」を目標に都市機能の基盤づくりを進めておりますが、その展開とともに大型かつ多様・多様なビルの建設が進んでおり、設計・建築及び維持管理に至るまで、より高度な知識と技術が要求されるようになっておりますし、経年により老朽化したビルにおいては、各種機能を維持するための管理が非常に重要であります。

また、現在、地球規模の環境汚染が問題となっておりますが、都市の環境問題としても、ビルにおけるゴミの減量化・資源のリサイクル化や揮発性有機化合物等による室内空気汚染対策等の新たな課題が生じております。さらに、市民の意識は、質の高いものを堅実に遊び、物質的にも精神的にもよりゆとりのある暮らしや環境を求める方向へと変化し、その市民が多く集まるビルにおいては、機能性や経済性に加え、よりいっそう快適性や安全性を考慮した環境づくりが要求されているといえます。

このような数々の課題や多様化する市民のニーズに対応するため、貴協会が10月4日を「都市ビル環境の日」に設定し、快適で健康的な都市づくりに積極的に取り組まれることは誠に時宜を得たものであり、21世紀のモデル都市として、人にやさしく自然と共生した都市づくりをめざす本市といたしまして、心から御賛同を申し上げます。

今後さらに、ビルの所有者、設計・施工者、維持管理者、使用者及び行政による情報交換や相互の協力により、ビルの快適な環境づくりが進められることを企願する次第です。

最後になりましたが、貴協会のますますの御発展と会員の皆様の御健勝を心からお祈りいたします。



北九州市長 末吉 興一

現代の建造物の存在をしっかりと支える貴協会のさらなる発展を祈念します

「都市ビル環境の日」の記念式典の開催にあたり、社団法人福岡県ビルメンテナンス協会の皆様から心からお祝い申し上げます。

さて、近代の都市は、ビルなどの巨大建造物の存在を抜きにしては考えることはできません。林立するビルは、生産、流通、居住など重要な都市機能を担っています。これらのビルが、正常に機能するよう絶え間なく維持管理を担われてきた貴協会の役割は非常に意義のあることと思います。

ところで、北九州市に今年の4月、門司港レトロがグランドオープンしました。この門司港地区は明治中期から昭和初期にかけて、九州の鉄道の起点として、また、大陸貿易の拠点として発展し、産業、経済、文化の全般にわたって繁栄した街です。ここには、旧門司三井倶楽部や旧大阪商船ビルなど大正ロマン漂う建造物が立ち並んでいます。歴史と自然と文化が融合した新しい都市観光の拠点として整備したわけですが、もしこれらの歴史的建造物がすでに姿を消していたとすれば、非常に寂寥地区になったことと思います。それだけに、建造物がいかにその街を存在感あるものにするかということであり、皆様の活動は、現代の建造物の存在を支える非常に重要なものだと思います。

これからのビルメンテナンスを取り巻く状況は、ビルのハイテク化やビルアメニティーに対する関心の高まりとあいまって、安全性、衛生面のみならずユーザーのニーズは非常に大きくなっていくものと思いますが、本日の「都市ビル環境の日」を契機として、貴協会がさらに発展されることを祈念いたします。

都市ビル環境の日 記念行事

日時 平成7年10月4日(水) 場所 西鉄グランドホテル

記念行事

記念式典

13:00~14:00

出席者

福岡県知事
福岡市長
北九州市長

九州各県ビルメンテナンス協会長 他
社団法人 福岡県ビルメンテナンス協会

基調講演

14:00~15:00

テーマ「ビルメンテナンスに期待される社会的役割の行方」

講師

社団法人 全国ビルメンテナンス協会
会長 八木 祐四郎

講師 Profile



昭和32年、東京美装興業株式会社設立（現会長）。現在、社団法人全国ビルメンテナンス協会会長、財団法人ビル管理教育センター理事、財団法人全日本スキー連盟専務理事、財団法人日本オリンピック委員会専務理事など、多くの要職を務める。また、昭和60年環境衛生功労、平成7年にはスポーツ振興面での功績に対し藍綬褒章を受章。

パネルディスカッション

テーマ「都市ビル環境とこれからのビルメンテナンス」

(企画 社団法人 福岡県ビルメンテナンス協会 青年部)

15:00~16:30

記念パーティー

17:30~19:30

関連行事

11:00~12:00

10.4クリーンアップ福岡

パネルディスカッション

1995年は、戦後50年の節目に当たります。ところが、その記念すべき年の1月17日、阪神大震災に見舞われました。5,000人を超える死者を出したこの大惨事に、我が国の危機管理がいかに杜撰なものであるかを思い知らされました。同時に、天災とはいえ、この大震災は都市ビル環境の崩壊であるとも言えます。

そこで、私達(社)福岡県ビルメンテナンス協会青年部は、本日の『都市ビル環境の日』に当たり、都市形成における快適環境をキーワードに幾つかの課題について勉強したいと思います。

まず、ビルメンテナンス業は、都市ビル環境の衛生的向上を以て市民の皆様様に「きれい(美観)・気持ちいい(設備)・安心(警備)」を創り出すサービス産業であることを業界あげてPRし、健康的で快適な都市生活を重要な部分で支えている、なくてはならない業種

であることを広く理解して頂き、かつ社会の信頼と評価を頂くことを究極の課題とします。

次に、ビルメンは市場競争時代と言われているなか、都市間格差と企業間格差の問題を中心に、ビルメンテナンスの近未来の課題として何を求め、何を創造するかを模索していきたいと思えます。

本パネルディスカッションを企画する過程で、実に多くの方々のお知恵を拝借致しましたが、私達ビルメンが直面する問題は複雑であり、この問題を解決するには向後を担う経営者間の協調が必要不可欠であろうと思えます。

私達は全国のヒューマンネットワークを構築し、志を同じくする仲間達と協力しながら21世紀に向けて、微力ながら『快適な環境づくりのお手伝い』をさせて頂きたいと思えます。



コーディネーター
神崎 公一郎 氏
Profile

昭和27年生まれ、長崎県出身、早稲田大学法学部卒、フクニテ新報社社会部、経済雑誌を経て、現在、月刊経済情報誌『エコノス』編集長。また、本年4月よりRKBラジオ金曜日8時20分『坂口卓司の朝イチタックル』のコメンテーターとしても活躍中。

パネリスト Profile



野原 隆士 氏
福岡県保健環境部
技術主査
昭和32年生まれ
日本大学農獣医学部卒



富島 貞彦 氏
[社] 兵庫ビルメンテナンス協会専務
昭和34年生まれ
関西大学経済学部卒
株式会社シンコーグリーン
常務取締役



戸嶋 弘一 氏
[社] 福岡ビルメンテナンス協会専務
昭和15年生まれ
早稲田大学理工学部卒
中央地所株式会社
代表取締役社長



打越 基安 氏
[社] 福岡県ビルメンテナンス協会青年部
昭和29年生まれ
久留米大学工学部卒
三洋ビル管理株式会社
代表取締役専務



八木 秀記 氏
ビルメン経営フォーラム21会員
昭和54年生まれ
慶応義塾大学経済学部卒
東京実業興業株式会社
取締役副社長(管理本部長)



金子 誠 氏
[社] 福岡県ビルメンテナンス協会青年部
昭和27年生まれ
早稲田大学教育学部卒
株式会社朝日ビルメンテナンス
営業安全委員長

10.4クリーンアップ福岡の展開

都市で生活する人々が、ふと思ひ浮かべる幸福の原風景とはどんなものでしょうか。青空のもと、色とりどりの花が咲きみだれる芝生で、笑い声に包まれながらお弁当を囲む家族……。多くの人はおおよそこのような光景をイメージするのではないのでしょうか。そして、その風景のなかには小動物が遊び回っていることはあっても、空き缶や吸殻が散らばっていることは決してないでしょう。

私たちは利便な都市機能を追い求める一方で、人間の原初的な欲求とでもいえる自然回帰にも心を傾け始めました。機能美の粋ともいえるビルの直線的なカットにも、このごろ緩やかなアーケラインが加わってきました。モダンなアトリウムには緑あふれる植物群が植え込まれ、人々の心を潤わせています。しかし、それらの植物は水だけで生きていけるよう、水養成分の体質に変えられたものだと聞いています。日照不足からその鮮やかさが包埋せ、寿命が尽きるのも早いようです。

子供たちが無邪気にばらまくポップコーンに群がる公園のハトたち。平和の象徴といわれる彼らでさえ都市の人工環境のなかでは、その生存領域を日々狭められています。ある日、地下街通路に迷い込み、出口を見失って疲弊しきったハトを見かけました。その姿は自然との折り合いを欠いた現代都市環境の閉塞状況を象徴しているように思えてなりません。

自然の摂理に反する人工環境の管理思想が、人間に真の幸福をもたらすとはとても考えられません。日々の都市生活のなかで私たちは、知らず知らずそのバランス感覚を麻痺させているのではないのでしょうか。

いま「共生」というキーワードが、地球環境レベルでクローズアップされています。21世紀が近づくにつれ、この人類の合言葉の持つ重みもますます加わっていくものと思われます。小さな生命を慈しんでいく人工環境開発と管理思想の延長線上に、都市生活者の幸せが存在することを私たちはいま確認したいと思えます。

平成7年10月4日『都市ビル環境の日』。私たちはその第一歩を着実に踏み出します。無造作に投げ捨てられた都市生活者の“良心”をクリーンアップすることによって……。

午前11時12分。天神アクロスを背景に、ひとりの管理職が慣れぬ手つきで罫を動かしている。ふと見ると、文化圏取りの底が磨り切れている。「こうなるまでに、この文ナリで作業している従業員は何日仕事に就いたことだろう。雨風の日も酷暑の日もあったろうに……」と独りごちた。



午前11時28分。遠賀川沿いにコスモスコンから出発した一団のなかに愛煙家がいた。拾い集めた吸殻の多さに溜め息をつきながらも、やっぱり一服つける。風に揺れる河川敷のコスモスにしばらく目を留めていたが、何かを決意するようにポケットから真新しい簡易吸殻入れを取り出した。



**私たち
社団法人福岡県ビルメンテナンス協会の
『10.4クリーンアップ福岡』が、
もうすぐ始まります。**

午前11時47分。小倉城を望む公園では、膨れあがったビニール袋がいくつも積み上げられていた。軍手をつけた社長さんが、へっぴり腰で頭張っている。従業員たちが「ギクリリ腰にならんでよ」と笑顔で声援を送った。



11時59分。銀色に輝く久留米市庁舎へ続く明治通りは、まるで参道のように掃かれていた。無駄に残る掃き跡がひとつとところで途切れている。よく見るとコンクリートブロックの隙間に根づいた草の花が、誰にも気づかれないこともなく、ひっそりと咲いていた。

